

## 第8節 7日目：5月5日（火）：小牛田＝塩釜 晴れ

7日目の最終の仕上げは、小牛田駅から塩釜駅までの 29.8 kmである。昨夜は目覚ましを4時にセットし、就寝する。4時少し前に目が覚める。早速、朝食を摂りながら、本日の作戦を練る。予想到着時間もメモする。初めての挑戦である。それは、本日は泊まりではなく、帰宅予定なので。それ故、新幹線（やまびこ）で仙台～大宮の最終乗車時刻、大宮下車から新宿駅到達までダイヤを勘案する必要があるからだ。必殺仕置人の心境から時間内に終わらせたかった。

小牛田（7時）→松山町（8時）→鹿島台（9時30分）→品井沼（11時30分）  
→愛宕（13時）→松島（14時）→塩釜（17時）

また、塩釜から仙台までのダイヤをメモする。

16時47分→17時5分／17時9分→17時27分／17時19分→17時37分／  
18時3分→18時22分／18時28分→18時46分／18時54分→19時14分

新幹線 仙台 20時→大宮 21時34分

在来線 大宮 22時58分→新宿 22時58分



小牛田駅

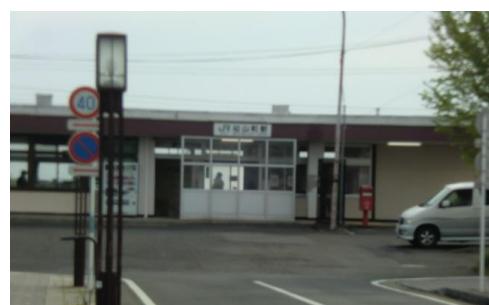


本日も東横インで朝の食事は摂らずチェックアウト（5時半頃）。仙台泊は3泊したが、一度も食事する余裕は全くなかった。荷物をコインロッカー（300円）に預ける。4両編成の一閑行の仙台発6時の電車で小牛田駅を目指す。塩釜から松島までのトンネル数を数える。営業キロ10kmの中に、トンネルの数は11あった。最後の仕上げは大変であると覚悟する。  
小牛田駅には6時44分到着。この駅は、東北本線の他に、石巻線と陸奥東線の始発駅であった。早速、松山町駅を目指し、6時49分スタート。道路脇には水田が広がる。7時3分、前方に土手あり。この土手は鳴瀬川であった。野田橋まで迂回し。万歩計で405歩ある橋を渡る。橋を渡ると大崎市（7時21分）であった。7時25分、今歩いてる県道（19号線）は線路が大きく離れているので、少しでも鉄道に近づくため、左折し川に沿って歩く。松

島 22 km、鹿島台 7 km の道路標識があった。道なりに歩くと、まもなく鉄道沿いとなり、その先に松山町駅（7 時 27 分）があった。順調な滑り出しであった。松山町駅から暫く歩いた先で幹線道路（県道 19 号線）に合流する。鹿島台駅までこの県道を歩く。8 時 16 分、長尾入口バス停前（ミヤコーバス）通過。近くに共栄火災の看板があった。8 時 22 分、松山新田バス停前を通過。その先に志呂庫神社の看板があった。8 時 33 分、鹿島台町平渡（鹿島台高清水線）を通過。平渡の陸橋を渡る。その先に鹿島台駅（9 時 10 分）があった。この駅も予定時間内に到着。



松山町駅への路



松山町駅



平渡バス停



鹿島台駅



牛舎



二子屋橋

次は 5 km 先にある品井駅である。この駅に沿った幹線道路がないので、想定した時間よ

りも余計かかると判断。鹿島台駅と品井駅の間には川が横たわり、また水田があるからだ。当初の行き方は鉄道の右側を歩く国道 346 号線を考えていたが、相当の遠回りなので、少しややこしい道筋になるが、鉄道の左側を歩く。その結果、県道 60 号線を選定。結果的には正解であった。9 時 33 分、野蒜（のひる）街道第 1 踏切を横切る。広大な水田が広がっていた。途中、田植えの苗運びをしている方に、品井駅への概ねの道筋を問い合わせせる。「今歩いている路で、非常に遠いが OK」とのことであった。10 時 4 分、牛舎前を通過。この辺り、再度、民家の方にお尋ねする。「真っ直ぐ歩き、橋を渡って道なりに進んで下さい」と教えて頂く。左にある土手は当初川の土手であると思ったが、違っていた。水田であった。10 時 11 分、二子屋橋（測定ミス：200 歩位）を渡る。この橋を渡ると松島町であった。



10 時 15 分、前方に JR 品井駅の看板が現れる。JR 品井駅へ近づき、鉄道に沿った道を暫く歩く。ここから意外にも品井駅は遠かった。10 時 44 分、第 2 上竹谷踏切を横切り、鉄道の右側を歩く。県道 229 号線を歩く。やっとのことで、11 時 2 分、品井沼駅に到着する。この辺りから、腰が少し痛みかけ、ペースダウンが余儀なくされる。



明治潜穴公園 愛宕駅への路

11 時 33 分、県道 229 号線を歩き、国道 346 号線に戻る。この地点が当初考えていた道筋である。このコースを選定すれば、この地点から品井駅までピストン運動が余儀なくされた。それでも相当の遠回りとなった。この地点に沿って、川を挟んで涼しそうな桜並木が 500m 位続いていた。しかし、途中で行き止まりとなり、橋がないかも知れないと考えた。それ故、結果的には失敗であったが、346 号線を選択することとした。暑くなつたため、上

着を脱ぐ。12時、右腰の痛みで5分位小休止。この辺りから、何度も小休止しながらの歩きとなる。12時9分、道の駅（明治潜穴公園）で水分補給する。この公園には「水と時の流れ」の記念碑があった。12時30分、山間で枝打ちした木を見つけ、これを杖にして歩くことを呟嗟に思いつく。12時37分、町民の森への看板があった。12時44分、跨線橋にて鉄道を横切り、鉄道の左側を歩く。右腰の痛みで、数百メートル単位で少しづつ休みながら進む。13時7分、やっとのこと到了着。運悪く、駅舎の名前が見当たらなかった。それ故、15m位階段を上った先にあるホームまで向かう。この行程は、今日の私にとって非常に辛かったが、無事、愛宕駅名をデジカメに収めることができる。その時、丁度、上りの電車がやって来る。



13時14分、松島中学校前を通過。松島中学校の校庭には、薪を背負った二宮金次郎の像があった。13時25分、塩の匂いがする。192歩ある高城大橋を渡る。13時37分、仙台28km、塩釜12kmの道路標識前を通過。その先のそば処、うどん処そして丼類の翠松庵で仕上げ蕎麦を摂る。この女将さんに「これまでの歩き実績はカッシ一館に掲載しています。間もなく本州踏破ができます」とPR。松島駅には、14時18分到着。



ここから塩釜駅までの営業キロは10kmであった。海岸線の歩きのため、実質的には15km位はあるだろう。14時47分、みちのく“伊達政宗歴史館”を通過。14時52分、松島海岸が広がる。沢山の観光客の姿があった。15時4分、松島トンネル(125m)を通過。杖を突きながらの万歩計は246歩だった。歩幅が相当短くなっていた。日本三景松島の看板があ

った。少し歩くと、利府町(15時45分)に入る。16時6分、209mがある浜田トンネルがあった。近くに、仙石線の陸前浜田駅があった。



松島駅



伊達政宗歴史館



松島トンネル



塩釜駅への路

ここで、塩釜までの道のりを通行人にお伺いする。「随分遠いよ」との回答がある。腰が痛くなりスピードと観察力が弱まる。須賀第1・第2トンネルがある。どちらが先にあつたかは、メモなし。16時46分、塩釜市に入る。17時30分、仙石線の東塩釜駅に到着。



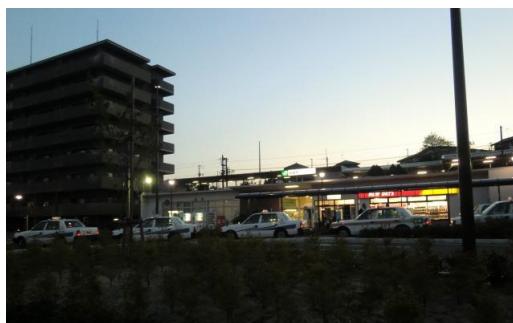
須賀トンネル



塩釜市へ

ここで、塩釜駅の方向が分からず、しかも腰痛みでパニックになる。タクシーを拾い、塩釜駅まで行くことも考える。最終の新幹線の時刻が迫っているからである。本塩釜駅近

くで通行人に塩釜駅までの路筋と道のりを聞く。「この通りを真っ直ぐ進めば行けますが、随分遠いですよ。1時間以上かかるよ」と厳しいアドバイスを頂く。タクシーを拾おうとするが、拾えず。もう一人の通行人の方に聞く。「ここから 30 分位で行けます」と今度はホッとなアドバイスを頂く。何とか。塩釜駅 18 時 54 分の電車に間に合いそうな気がし元気である。水分の補給と休みながら、やつとのことで 18 時 42 分、塩釜駅にゴールする。



塩釜駅（本州踏破！！） 私を支えてくれた杖

重い腰を引きずりながら、18 時 54 分の電車で仙台駅へ。仙台には 19 時 14 分到着。仙台駅でコインロッカーに行き荷物を引き出した後、新幹線の切符を買おうと試みようとするが、腰が痛くて立ち上がり難い。やむを得ず、鉄道の案内に行き、色々お世話になる。「今日は帰れそうにないので、何とか宿泊（東横イン仙台）の手配はできませんか」とお願ひする。係りの人を呼んで頂く。「ここは宿泊のお世話まではできませんが、電話番号は調べることができます。また、タクシー乗り場までは車椅子でご案内できます」と。それで、昨夜泊まった東横インの電話番号を教えて頂き、電話する。運よく、空室があるとのことであった。安堵する。係りの人に、車椅子を用意して頂き、コインロッカーから荷物を取り出してもらい、タクシー乗り場まで送って頂く。感謝感激。体が不自由な人の気持ちが痛いほどわかる。そして、自由に手足を動かせることの素晴らしさを。東横インにやつとのことで到着する。部屋は偶然にも、4月 29 日、30 日に宿泊した部屋（703 号室）であった。腰が痛かったので、荷物をフロントの方に部屋まで運んで頂く。



ホテル内

本日は色々な人に大変お世話になったが、何とか無事ホテルにつき安堵する。室内に本日は帰れないと電話する。本日の営業キロは 29.8 km、万歩計は 76,693 歩であった。これで、**初の車椅子の体験をしたが、念願の本州踏破（青森～下関：1,856.8 km）を達成する。**同時に叔母の縁綬褒章に花が添えられ感無量で言葉なし。

## 第9節 8日目：5月6日（水）：帰宅 晴れ

本日は、5時半頃起床。初めてこのシリーズ、東横イン仙台で朝食。朝食後、宅急便で重いバッグを送付するため、フロントに出向く。8時過ぎホテルをチェックアウト。お土産と新幹線切符を購入。仙台発9時24分始発のやまびこ130号（乗車券5,940円、特急券4,220円）で家路に向かう。自宅には13時3分到着。色々なドラマがあったが、辛いようで面白い本州踏破の旅であった。**同時に最後の詰めが如何に難しいかを思い知らされた東北の旅であった。**

